（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0174100511		
法人名	有限会社ヤマギシ企画		
事業所名	グループホーム入江（1階）		
所在地	釧路市入江町8-29		
自己評価作成日	令和 4 年 6月 15日	評価結果市町村受理日	令和 4 年8 月 31 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100511-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5　芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和4年7月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ただの介護ではなく認知症介護という事を強く意識し、入居された方がグループホームに入所する事で認知症という事を不安の種に思わないマイペースな生活が続けられるように考えています。グループホームの特性上医療的な限界など出来ない部分もありますが、可能な方でご希望があれば看取り介護の選択肢も可能としています。認知症だから出来ない事だと思っても、グループホームであれば可能な事が沢山あり、認知症があっても当たり前の普通の生活が出来る場としていきたいと思っています。それによりご家族様も認知症介護に悩まされずに生活して頂きたいという思いがあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は商店や企業、病院等の産業地域と高齢者住宅や一般住宅が混在する場所に位置し、近くには自然豊かな公園がある。職員も利用者も明るく、家族と利用者、地域の絆を大切に、事業所理念を職員全員が共有し、利用者は、ゆったり、のんびり、思い思いに暮らしている。コロナ禍の影響により町内会の行事や小学校の行事の参加するなど交流を深めていたが現在は自粛している。利用者の外出は少人数で散歩に出たり、ドライブに行ったり短時間の外出を支援している。居間では鳥居を作り初詣でをしたり、運動会や花見などまた飲食店のテイクアウトを買い外食気分で食事会をしたり、その時々で楽しんもらえるように工夫をしている。家族との面会は少ないが、感染症予防を施して短時間面会しているが、感染症万延防止が出た場合は窓越しの面会で対応している。運営者は、職員の育成にも力を入れ、研修参加を職員に促し、より質の高いケアに努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア会議で理念を復唱したり話しをする機会があったが、今はコロナによりこれを今は省略しており、職員の入れ替わりもあり浸透度は薄くなっていると思う。	地域密着型サービスの意義や事業所の役割を意識しながら全職員で作り上げた事業所理念は事務所に掲示され、毎月のフロア会議の中で唱和をしている。	社会情勢の変化、コロナ禍により地域との交流の大切さ、職員の入代わりによる理念の浸透性等、現状に即した事業所理念の見直しについて話し合い、実践につなげて行くことに期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のごみ拾いや小学校との交流はあるがコロナの影響で頻度は減っており、町内会や運営推進会議など書面でのやり取りが主になっている。	コロナ禍の中の町内会会動では清掃活動以外は自粛している。小学校との交流頻度が減っているが3･4年の子供達がマスクを作り届けてくれた。例年は学芸会や運動会の行事に学校から案内があり参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談や認知症サポーター講座など、実践を交えて地域の人に伝える機会もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナにより書面開催が主で、それに対するご意見は頂いているが、対面でやっていた時に比べると深い話は出来ていないと思う。その後の内容の浸透は会議に関わる管理職は良いが、他スタッフまで同じレベルでの浸透は出来ていないと思うが、活かされている部分もある。	運営推進会議はコロナ禍の為書面開開催となっている。利用者の現状説明や事業所の行事報告、事故報告等を会議録にまとめ各委員に送付し、返事をもらいサービスに反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困った時やわからない事がある時は市町村担当者に迅速に相談する様にしていて、間違えた方向へ行かない様に連携を密にしている。	管理者は市の担当者と介護関連の相談や感染症対策、困難事例の対応等、普段から連絡や相談を行える協力関係ができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がダメな理由ややむを得ない場合などをフロア会議や迷う様な事例がある時に話し合いを細かくする様にしている。やむを得ない事例は過去に経験はあったが、現在は無い。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催している。全職員が所内研修で学び、身体拘束の対象となる具体的行為を理解し、共通理解を図りながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修の機会もあり、虐待が見過ごされないように注意を払っている。		

グループホーム入江（1階）

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修という機会はコロナにより殆ど無いが、必要な方は成年後見制度を活用されており、必要になりそうな方が居る時も相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ているがコロナにより書面でのやりとりが主で、家族会の様な場で説明する事は出来ていない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんや家族さんの意見を聞くように努めているが、コロナによりその様な場自体が減っていると思う。家族会も満足に出来ていない。	コロナ禍により家族の訪問にも大きく影響している。電話連絡や「入江便り」の送付などで、家族との連絡や相談がスームーズに出来ており、要望等は運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期ではあるが個人面談をやったり、その時その時で課題や意見がある時に話し合いをするようにしている。	日常業務や会議で職員の意見や提案を聞く機会があり、聞き取った要望等を検討しながら、事業所運営に反映している。また、個人面談も不定期だが行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考えていると思うが、トータル賃金が増えなかったり賞与も少ない時があったりで、その部分では向上心は上がって来ない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナにより機会が少ないが研修や、トレーニングになる様に仕事分担等をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターさん主催の意見交換会にリモートで参加したり、ホーム長がGH協会の役員で同業者とのネットワークや情報交換の機会は多くあると思う。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症介護を行う上でここが重要になると思っている。初期に限らず安心して馴染んで自分を出してもらえる様に常に意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんとのその様なコミュニケーションは取れていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ている。GHで出来る事とインフォーマルなサービス等も含めて検討、対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が過剰に介護をしない様にし、その人の能力を見極めてお願いできる事はやって頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人だけではなく、ご家族の意見も重要視している。家族支援を強く意識している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナによりほぼ出来ていない。家族さんとの面会を短時間でやるのがやっとの状態。他、お便りを毎月郵送している。	コロナ禍の中であるが、利用者や家族の希望に添えるよう馴染みの関係の支援を行っている。お寺さんが利用者さんに会いに来てくれたりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り関係性を続けるように考えている。看取り介護で終了する事が多いが、その後も山菜を持ってきてくれる家族さんや年賀状を送ってくれる家族さんも居る。介護相談に来られる方も居ました。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に意識して話を聞いたりして検討している。	職員は利用者の一人りひとりの思いや意向を把握し支援に繋げている。意思疎通が困難な利用者の場合は、表情や仕草などから判断したり、家族等から情報を得て共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に情報を確認できる様に書類等の準備しているが、それを確認しなくてもほぼほぼ情報は把握できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に情報を確認できる様に書類等の準備しているが、それを確認しなくてもほぼほぼ情報は把握できている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	なるべく本人や家族、関係者と話し合いをする様にしていて、介護計画に生かすように努力している。	利用者の意向や身体状況・家族の要望をもとに、職員の意見を取り入れ介護計画を作成し、支援を行っている。心身の状態変化時は、変化に応じた見直しと現状に即した介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	努めているが、記録記入に関しては細かい所を考えるとまだまだ出来そうな所はある。全スタッフ100％共有できているかといえば足りないところがあると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	広い視野で検討してなるべく柔軟性を持って対応する様に意識している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の出来る事を把握し心身の力を発揮する事が出来ていると思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族さんの希望に沿って適切な医療が受けられる様に支援している。	かかりつけ医への受診は基本的に家族が行なっているが、状況によりスタッフが同行している。訪問診療（月2回）や訪問看護（月2回）を実施して利用者の健康管理を支援している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護師さんに来て頂いており、24時間連絡相談体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている。医療機関によっては時々しっかりと連携を取ってもらえない所もある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いのタイミングや準備不足等でミスの経験もあったが、より円滑にミスなく各所共有する事が出来る様に強く意識している。	重度化と終末期の支援については、指針が策定されており、入居時説明している。利用者と家族の意向を踏まえた上で、医療機関や家族と連携を図りながら支援する体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナの影響もあり研修や訓練は十分に出来てはいないが、マニュアルは作っている。経験した時に振り返ったり話し合い等はしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の小学校との協力体制はあるが実践は無く、避難訓練での対応方法のイメージ共有は出来ていると思う。物品等の備えは出来ている。	年2回避難訓練を実施している。コロナ禍で消防署の立ち合いや地域住民の参加は得られていないが課題を整理し取り組みに活かしている。備蓄品は準備しているが、定期的に確認している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほぼ出来ているが、職員による良くない言葉掛けにより指導をしなければいけない事は時々あるため、そのような事が無くなる様に努力している。	職員は利用者の個々の人格や意思を尊重して、傾聴することを大切にしている。介助時や声掛け時は、小さな声で呼びかけたり、周囲の人に聞かれても嫌に思われないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおむねそれに沿って出来ていると思うが、100%ではないと思う。例えば寝る前にお風呂に入りたい希望があるとしても、職員数の問題で不可能である事等がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ている。コロナにより難しいが、一緒に服を買いに行く事もある。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事をやって頂ける様にしている。	職員が利用者の好みやバランス、季節感に配慮した食事を提供し、一緒に会話しながら食事を楽しんでいる。利用者の状況に応じ、下ごしらえや後片付けを職員と行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ているが1日単位で見るとムラがある事もあり、過去に保健所に相談の上、1日ではムラがどうしてもあるので3日単位で考えても良いとの事がありそれも考えてバランスを見ている。水分は1日～2日位で見ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	促しや介助を行っている。認知症の症状により混乱や興奮等口腔ケア自体がかなりのダメージになる方（前頭側頭型認知症などの方）も居り、家族、歯科医師とも相談し認知症の事も考えながら支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の身体レベルや認知症による事等を考え、介助方法、自立支援を考えて行っている。	利用者の排泄パターンに応じて個別に支援を行っている。自立排泄の利用者は多いが、不安やプライバシーに配慮をしながら支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	短時間の体操を行っており、栄養バランスや水分に関しても意識している。下剤も使用しているがなるべく使わなくても排便が出来る様に意識している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の気分や体調、通院前日に入浴したい、今日は入りたい、入りたくない等の希望には沿って出来ているが、時間に関してはある程度決まった時間帯でしか出来ていない。例えば寝る前に入浴したいとしても職員が一人しか居ない時間帯は無理があり、職員数の手厚い時間帯での入浴となっている。	週2回を目安に、入浴を実施しているが利用者の状態に合わせて清潔保持に配慮してる。数種類の入浴剤から利用者の希望を聞きながら入浴剤入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の気分や体力等により日中休息する方とそうでない方がいる。寝る時間も皆さん様々で、個々のペースで生活されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	覚えられるように努力しているが全てというのは難しく、わからなくならない様に薬内容を確認できる書類を職員がすぐ見やすい所に用意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限りこれを大切にする様に意識している。個々の趣向がわかりずらい方も居るが、あそびや読書等、試行錯誤して本人の興味のある物を常に考えている。		

グループホーム入江（1階）

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により出来ていた事がほとんど出来なくなっているが、散歩やドライブは時々出来ている。外食など人が混雑する所へはほとんど行けなくなり、代わりにテイクアウト品を皆さんで食べたり、敷地内で小さな会場を作り焼き鳥やピザ、かき氷等を外で用意して青空カフェみたいな事を時々行っている。	コロナ禍の中、少人数で散歩やドライブには出かけているが、人の大勢集まる場所に出かける事や全員で出かけることも自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの影響によりお金を使う事がまず難しい。少額を個人で持っている方も居たが最終的に無くしてしまう事がほとんどで、今は皆さんのお金をGHで管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在は手紙を書かれる方は居ないが、送られてくる事はある。電話の対応は出来ているが、個人で携帯電話を所持している方は個々に電話をしている様。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハード面の限界があり出来ていない所もあるが、出来る範囲では工夫している。	共有空間の対面式の台所からは利用者の状況を見渡せ、利用者と話をしながら食事の準備等を行っている。また壁には季節感ある飾り付けや行事の写真等を飾ったりしている。職員は換気等環境づくりに気を付けなが支援を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごされている事もあれば一人になる事もある。その日その時の気分で各々の思う様に過ごされていると思う。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら居心地よく暮らせるようにしている。	利用者の使い慣れた馴染みの生活用品や装飾用品などを持ち込み、家族や職員と配置を考えながら安心と安全な居室となり居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人わかっている方はわかっているし、わからない方は介助や声掛けを行い、皆さん問題無く生活出来ている。		